

事業名称	《城下町柳川と武家文化》発見・体験プロジェクト			
実行委員会	立花宗茂生誕450年記念実行委員会			
中核館	立花家史料館			
	住所	〒832-0069 福岡県柳川市新外町 1		
	TEL	0944-77-7888	FAX	0944-77-7890
	ホームページ	http://www.tachibana-museum.jp/		
構成団体	柳川市、柳川市教育委員会、柳川古文書館、柳川市観光協会、柳川市商工会、柳川市商工会議所			
事業開始時点の課題分析	<p>江戸時代に、柳川藩主立花家の城下町であった柳川。柳川市は、「立花氏庭園」「戸島氏庭園」「水郷柳河」と、3件もの国指定名勝をかかえる、他に例の少ない景勝の地である。それらの名勝はすべて、柳川で武家文化が開いた江戸時代を成立背景とするが、これらの成立背景は柳川市民にも全く認識されていない。また柳川には、全国でも有数の質と量を誇る柳川藩主立花家史料が遺されている。これらの史料は、美術工芸品(うち国宝1件、重文1件)は立花家史料館が、古文書類(うち重文2件)は柳川古文書館が所蔵し、両館にて長年展示・公開を続けている。</p> <p>しかし、現在の柳川の文化的基盤をつくったともいえる城下町特有の武家文化や、柳川藩主立花家の歴史は、柳川市民にもほとんど認識されておらず、豊富な文化資源が活用されているとは言い難い。特に、現状の観光戦略では個々の名勝を「点」で紹介することとどまり、柳川の武家文化を象徴する名勝を、城下町柳川という視点で結びつけた「面」としてアピールするまでに至っていない。また近年、アジア圏を中心に海外からの観光客が大幅に増加しているが、城郭のようなわかりやすい象徴が現存しない柳川は、アピール力に乏しく、観光案内も表面的であり、多言語に対応していないため、国内外ともに、長期滞在客やリピーターの獲得も難しいと推測される。</p>			
事業目的	<p>柳川市民から国内外の観光客にいたるまで、すべてのひとが《城下町柳川と武家文化》を発見・体験できるようなコンテンツの作成を目的とする。</p> <p>国外では「samurai」、国内では「戦国ブーム」と、武家文化は現在、国内外問わず人気の高い文化コンテンツといえる。また、立花家史料館および柳川古文書館の展示等により、初代柳川藩主・立花宗茂の全国的な知名度は、最近の5年間において徐々に高まりを見せている。</p> <p>本事業では、国内外ともにアピール力のある《武家文化》に注目し、これまでの立花家史料館および柳川古文書館の蓄積を重ねて、さらなる地域文化財の調査・研究により文化資源を発掘し、その文化資源を最大限に活用して、情報発信、体験プログラムや鑑賞サポートの構築、地域との協働による観光誘致をおこなっていく。</p> <p>「川下り」「さげもん飾り」などの従来からある柳川のイメージも、文化的背景には城下町としての歴史が隠されており、その文化的背景を深く知れば、柳川市民はふるさとへの誇りを抱き、観光客は豊かな柳川の魅力を発見して、長期滞在やリピート訪問へとつながっていく。本事業では、これらの礎となるコンテンツを立花家史料館が中核となって作成、誰にでもわかりやすい形式で発信する。</p>			

<p>事業概要</p>	<p>柳川市内の文化財調査研究機関としては、立花家史料館、柳川古文書館、柳川市教育委員会の3者がある。立花家史料館は美術工芸品、柳川古文書館は古文書・古記録、柳川市教育委員会は考古学を専門分野とするが、本事業では、それぞれに蓄積された文化財情報の横断利用を積極的に進め、地域にある文化資産のさらなる発掘と活用への意識を高めるシステムを構築する。</p> <p>本事業では、柳川の文化的基盤の中核といえる「柳川藩主立花家」について、Web 展示を作成する。立花家史料館・柳川古文書館・柳川市教育委員会の連携による調査・研究を進め、柳川藩主立花家を核とする城下町柳川の歴史・文化資源を発掘、多くの方が楽しめる形で国内・海外へ発信する。</p> <p>発信形式は、現状では、立花家史料館がパートナー契約を結んでいる Google のプラットフォームを利用することで、発信設備への費用がかからないだけでなく、モバイルガイドとしても使えるため、柳川市内各所にある文化財をすべて包括した「面」としてコンテンツを提供できる。多言語化して発信することで、全世界のどこからでもアクセスして Web 上の展示「柳川藩主立花家」を楽しめると同時に、柳川市民や観光客が、柳川において即時性のある現地案内として活用することができる。</p> <p>また、これまで作成してきたデジタルコンテンツを音声ガイド化することで、バリアフリー化を進める。Google のプラットフォームは音声も載せることが可能であるため、既存の Web 展示を調整して音声ガイド「近世大名立花家の名宝」「国指定名勝『立花氏庭園』」を作成する。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</li> <li>□イ ユニークベニューの促進</li> <li>□ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</li> <li>■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</li> </ul> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</li> <li>□イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</li> <li>□ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</li> <li>□エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</li> </ul> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</li> <li>■イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</li> </ul>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業は、柳川市内の文化資産を広く発掘・活用できるシステムを構築しながら、柳川市民から国内外からの観光客までもが楽しめるデジタルコンテンツを作成・発信することを目的とする。本事業の実施により、Google 社とパートナー契約を結び、情報発信に長けた立花家史料館(公益財団法人運営)と地域協働に長けた柳川古文書館(福岡県・柳川市運営)の相互連携が進み、互いの調査・研究成果を地域の魅力の発掘・発信へと繋げるシステムが構築されてきている。また、本事業で作成したデジタルコンテンツは、全世界で汎用性が高い Google プラットフォームを利用する Web 展示として発信するため、他言語・モバイル・音声(バリアフリー)と、文化財の活用手法を試行錯誤できる利点がある。今年度の他言語化・音声ガイド化の実施により、文化財を「わかりやすく」活用する手法の開発を二段階も進めることができた。</p> <p>また、《城下町柳川》を代表する文化財から順に、外国人にも日本文化が伝わるような、分かりやすい表現での解説を作成しているが、本事業の多言語化・音声ガイド化の成果は、アジア系観光客が多い柳川での観光案内の現場にて活用されつつあるが、次年度は広報・周知にも努め、活用範囲を広げたい。</p>

## 【事業実績】

柳川の観光名所である国名勝「立花氏庭園」と福厳寺、文化財公開施設である柳川古文書館と立花家史料館において、《城下町柳川と武家文化》発見・体験できるテーマのもと、柳川の歴史をものがたる文化財を多言語でわかりやすく解説するWeb展示を作成、またGoogleプラットフォームを利用する音声ガイドを作成した。

### 1 Web展示「柳川藩主立花家」「国指定名勝『立花氏庭園』」(シリーズ①②③)の作成

※平成29年度作成の「国指定名勝『立花氏庭園』」を音声ガイド化するにあたり、予備知識や補足情報を解説する必要性が確認されたためWeb展示を追加作成、シリーズ①②③という形にまとめた。

#### (1) Googleプラットフォームの条件に適する高精細画像の作成

- ①福厳寺(立花家菩提寺)が所蔵する歴代柳川藩主の肖像画を、学芸員が撮影
  - ②立花家史料館所蔵の立花家伝来資料を、撮影スタジオでカメラマンが撮影・納品
  - ③株式会社御花・立花家史料館所蔵の古写真を、事務員がスキャン読取・加工調整
- ◎撮影した全作品データはGoogleプラットフォームに登録・公開準備完了



Googleプラットフォーム画面

#### (2) 学芸員による各解説文の作成

◎重文「立花家文書」等、柳川古文書館所蔵資料からの歴代藩主の調査情報は柳川文化資産データベースとして共有

#### (3) 英語解説文を作成にあたり、英語翻訳を担当する事務員との協議を実施

◎他言語翻訳時に参考資料として活用できる日本語母語話者以外への補則解説を追加した英語解説文を作成

#### (4) Web展示「国指定名勝『立花氏庭園』」(シリーズ①②③)を韓国語・中国語(繁体字・簡体字)への翻訳

※解説文の精度・想定される利用者数・観光案内ツールとして汎用性を考慮して、申請時予定の「柳川藩主立花家」ではなく、「国指定名勝『立花氏庭園』」の多言語化を優先、「柳川藩主立花家」は次年度に繰り越して実施予定

#### (5) 立花家史料館がパートナー契約を結んでいるGoogleのプラットフォームへ入力、公開準備完了

※Google社による確認作業が完了次第、全世界へ公開開始。

### 2 音声ガイド「近世大名立花家の名宝」「国指定名勝『立花氏庭園』」の作成

(1) 以前に自主事業で作成したWeb展示「近世大名立花家の名宝」と、平成29・30年度作成のWeb展示「国指定名勝『立花氏庭園』」を利用して使う音声ガイド(日本語/英語)を作成 \*別添の音声記録媒体を参照

(2) 立花家史料館がパートナー契約を結んでいるGoogleのプラットフォームへ入力、公開準備完了

※Google社による確認作業が完了次第、全世界へ公開開始

◎スマートフォン等モバイルでGoogleプラットフォームを利用すると、文化財を見ながら音声ガイドを楽しめる

■本事業で作成したWeb展示「国指定名勝『立花氏庭園』」のURL ※Google社の承認をうけ公開開始

シリーズ①「アヤコ IN 立花伯爵邸」 <https://artsandculture.google.com/exhibit/twKyvAZDazlHJg>

シリーズ②「伯爵令嬢 立花文子」 <https://artsandculture.google.com/exhibit/kgKSAIN85MRmJA>

シリーズ③「名勝『立花氏庭園』の歴史」 <https://artsandculture.google.com/exhibit/6AKiQ9vq-EupLA>

\*他言語は末尾に 英語?hl=EN 韓国語 ?hl=KO 中国語簡体字?hl=ZH-CN 中国語繁体字?hl=ZH-TW をつける

#### ■利用者の感想

- ・解説がわかりやすく、名勝「立花氏庭園」について詳しく知ることができ楽しめた。
- ・写真が高精細で肉眼では見えない細かな部分もかなり拡大して見ることができておどろいた。
- ・Web展示の検索に手間取った。柳川市や立花家史料館のホームページからワンクリックでたどり着きたい。

#### →成果および今後の課題

これまでに作成したデジタルコンテンツは、Googleプラットフォーム上で組み替えて、Web展示を自由に作成できるため、テーマ・場面に合わせたモバイルガイドとして活用できる。しかし、一般の利用者には検索が難しく、Web展示へのアクセスの改善が課題である。また、今後の情勢の変化に備え、Google以外の形式も模索していく。